

令和2年度推薦入試 サンプル問題 (国際経済学部 国際経済学科) 小論文

(注意事項)

- (1) このサンプル問題は、新設される国際経済学部国際経済学科の、推薦入試個別学力検査実施科目である小論文について、受験者の準備のために提供するものです。
- (2) このサンプル問題は出題例です。実際の出題内容等が同様の問題になるとは限りません。また、問題の形式についても実際とは異なることがあります。
- (3) このサンプル問題は受験の準備のために提供するものであり、無断で転載することをお断りします。
- (4) 試験時間等は「学生募集要項」でご確認ください。

以下の文章を読み、問いに答えてください。

近年の日本においては、一般事務などの職では求職者数が求人数を大きく上回っていますが、土木、建築、情報処理・通信技術などの職では求人数が求職者数を大きく上回っています。すなわち、一般事務職として就職したい人は就職難であるのに対し、土木、建築や情報処理・通信技術などの職は人手不足である訳です。また、2000年代前半では、東海地方では求人数が求職者数を大きく上回る状態が続いていた一方で、北海道では求職者数が求人数を大きく上回る状態が続いていました。東海地方では人手不足が続いていたのに対し、北海道では就職難が続いていたのです。

このように、職業別や地域別の求人数と求職者数に不一致があることを、労働市場におけるミスマッチといいます。全体としての求人数と求職者数がバランスしていても、ミスマッチが存在すると、企業の手不足と労働者の失業が同時に存在することになります。ミスマッチを表す指標がミスマッチ指標という指標です。ミスマッチ指標についての次の文章を読んで、問いに答えてください。

地域間ミスマッチ指標および職業間ミスマッチ指標とは、それぞれ地域別および職業別の求職者数割合と求人数割合の乖離を合計したものです。

地域間ミスマッチ指標とは、各地域について、求職者総数に占めるその地域の求職者数割合 (U_i/U 、 U は求職者総数、 U_i は第*i*地域の求職者数) と、求人総数に占めるその地域の求人数割合 (V_i/V 、 V は求人総数、 V_i は第*i*地域の求人数) の差の絶対値を求め、それを全地域について合計して、2で割ったものです。すべての地域において、その地域の求人数割合と求職者数割合が等しければ、ミスマッチ指標は0となります。もしすべての地域で、求人と求職者の一方しかないという極端な場合には、求人数割合と求職者数割合の差の絶対値の合計は2となるため、地域間ミスマッチ指標は1となります。

同様に、職業間ミスマッチ指標とは、各職業について、求職者総数に占めるその職業の求職者数割合 (U_j/U 、 U は求職者総数、 U_j は第*j*職業の求職者数) と、求人総数に占めるその職業の求人数割合 (V_j/V 、 V は求人総数、 V_j は第*j*職業の求人数) の差の絶対値を求め、それを全職業について合計して、2で割ったものです。すべての職業において、その職業の求人数割合と求職者数割合が等しければ、ミスマッチ指標は0となります。もしすべての職業で、求人と求職者の一方しかないという極端な場合には、求人数割合と求職者数割合の差の絶対値の合計は2となるため、職業間ミスマッチ指標は1となります。

このように、ミスマッチ指標は0と1の間の値を取り、その値が小さいほど、特定の地域や職業に求職が偏っていないことを表しています。

問1 まず、地域間ミスマッチ指標と職業間ミスマッチ指標をよりよく理解するために、次のような架空の国を考えて、ミスマッチ指標を計算してみましょう。この国では、2つの地域（第1地域と第2地域）と2つの職業（第1職業と第2職業）しか存在しません。この国のある時点での求職者数と求人数が以下のようであったとしましょう。

	第1地域		第2地域	
	求職者数	求人数	求職者数	求人数
第1職業	3万人	4万人	7万人	3万人
第2職業	3万人	4万人	3万人	5万人

この国の求職者総数、求人総数、各地域の求職者数と求人数、各職業の求職者数と求人数を求め、それを用いて地域間ミスマッチ指標と職業間ミスマッチ指標を計算してください。

問2 2018年12月に、求人数が求職者数を上回る人手不足の状況が続いている以下の業種について外国からの労働者の受け入れの拡大を目的とする法案が成立しました。

1. 介護業 2. ビルクリーニング業 3. 素形材産業 4. 産業機械製造業 5. 電気・電子情報 関連産業 6. 建設業 7. 造船・舶用工業 8. 自動車整備業 9. 航空業 10. 宿泊業 11. 農業 12. 漁業 13. 飲食料品製造業 14. 外食業
--

この法案によって促進される外国人労働者の受け入れ増加は、職業間ミスマッチにどのような影響を与えると考えられるでしょうか。また、日本国内の失業に直接的にはどのような影響を与えると考えられるでしょうか。200字以内で述べてください。

問3 地域間ミスマッチや職業間ミスマッチは、求人が相対的に少ない地域や職業から求人が相対的に多い地域や職業に人々が移ることにより、長期的には解消していく傾向があると通常は考えられています。しかし、長期にわたって地域間ミスマッチや職業間ミスマッチが続く場合があります。これはしばしば大きな問題となっています。どのような場合にこのようなことが生じるのか、また、このような場合にはどのような政策が望ましいのかについて、あなたの考えを400字以内で述べてください。

解答と出題の意図

- 問1 求職者総数=3+3+7+3=16(万人)、求人総数=4+4+3+5=16(万人)
第1地域求職者=3+3=6(万人) 第1地域求人数=4+4=8(万人)
第2地域求職者=7+3=10(万人) 第2地域求人数=3+5=8(万人)
第1職業求職者=3+7=10(万人) 第1職業求人数=4+3=7(万人)
第2職業求職者=3+3=6(万人) 第2職業求人数=4+5=9(万人)

$$\text{地域間ミスマッチ指標} = \frac{1}{2} \left[\left| \frac{6}{16} - \frac{8}{16} \right| + \left| \frac{10}{16} - \frac{8}{16} \right| \right] = \frac{1}{8}$$

$$\text{職業間ミスマッチ指標} = \frac{1}{2} \left[\left| \frac{10}{16} - \frac{7}{16} \right| + \left| \frac{6}{16} - \frac{9}{16} \right| \right] = \frac{3}{16}$$

- 問2 出題の意図 法案で対象となる業種は人手不足が大きい業種であるので、ミスマッチを縮小させる効果があり、さらに求職者が求人を超過している業種への受け入れではないので日本国内の失業には直接的にはあまり大きな影響を与えるとは考えにくいことを、論理的に説明することができるのかを確かめる。
- 問3 出題の意図 地域間の移動や転職に大きなコストがかかる場合であり、地域間の労働移動や転職のコストを下げる政策について説明することを求めている。

※サンプル問題についての問い合わせにはお答えできません。

※本問題の内容の一部または全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著者の権利侵害となりますので、固く禁じます。